

## 学科近況

沖縄高専は今年の4月で創立13年目を迎えました。3月には本科生37名と専攻科情報コース生3名が無事卒業しました。4月には本科生42名、専攻科生1名を新たに迎えました。また、モンゴルよりの留学生1名を3年次に迎えました。新入生の皆さんには卒業までの期間、入学時の夢や希望を実現出来るよう頑張ってもらいたいものです。タイ国から2名の大学生が、6月から2カ月間インターンシップを行っています。学生の皆さんには、グローバル化を実感できる良い機会になると思います。

いま、5年生・専攻科2年生は進路決定の真っ最中です。5年生の就職希望は27名、進学希望は13名です。また、専攻科2年生は2名就職希望です。全員希望をかなえるよう頑張ってもらいたいものです。

(学科長：姉崎 隆)

### 各学年の話題 (1年生)

若々しい息吹みなぎる新緑の季節、沖縄高専メディア情報工学科では42名の1年生を迎え、学生たちはそれぞれの希望に満ち溢れた新しい学生生活を始めました。入学した当初は、慣れない90分授業や、初めての学生寮生活などに悪戦苦闘しながらも、徐々にそれらにも慣れて、落ち着いた生活を送ることができるようになってきているかと思えます。

4月には、毎年恒例の「体育祭」が開催されました。「体育祭」では、同じクラスの友達との交流はもちろん、クラスや学年の垣根を超えた同じ学科内の学生同士の出会いなど、楽しく充実した一日を過ごすことができたのではないのでしょうか。学生生活ではともすると運動不足になりがちです。勉強だけでなく、たまには友達と身体を動かして、心身ともに充実した学生生活を送ってほしいと思います。

6月上旬には定期試験である前学期中間試験が実施されました。多くの1年生が初めての経験に抱くであろう不安や戸惑いを少しでも解消してもらうために、本科2年生以上の先輩たちによる実践的な試験対策講座を開催しました。定期試験では、一人で集中して勉強することはもちろん大切

ですが、友達や先輩から勉強の仕方やコツ、科目の押さえるべきポイントなどを教わりながら進めることも大切ではないかと思えます。

長い学生生活では、楽しいことばかりではなく、様々な問題に遭遇することがあるかもしれません。直面した壁は一見すると大きく乗り越えるのが困難に思えるかもしれませんが、多くの壁は乗り越えた後から見ればきっと小さなものに思えるはずで、迷いながらも寄り道しながらも、一つ一つの壁を仲間と共に助け合いながら乗り越えて、慌てず着実に成長できる学生生活にして欲しいと思います。学生たちの成長の一助となるべく教職員一同しっかりサポートしていきたいと思えますので、保護者の皆様におかれましても、ご理解ご協力の程、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(1年学科担任：鈴木 大作)

### 各学年の話題 (2年生)

2年生は学生間の成績の差が広がり始める学年です。1年生のときは日々の学習の習慣がなくても、中学校の時の貯金でなんとか試験に対応できますが、2年になるとそれが通じなくなります。専門科目の内容も高度になりますので、ここでつまずくと卒業まで大きく影響をします。ご家庭にお

いても授業を大切にし、勉強の習慣をつけるようご指導をよろしくお願いいたします。

また、資格取得や部活など課外活動にも積極的に挑戦して欲しいと考えます。高専での5年間は長いようでいて、卒業まであっという間です。学生時代に勉強以外のことにも情熱をもって打ち込むことは人生にとってとても大切なことです。授業が終わったらすぐに寮に戻ってゲームばかりするのではなく、今の時間を有意義に使って欲しいものです。

(2年学科担任：正木 忠勝)

### 各学年の話題 (3年生)

3学年は学科別の学級生活がはじまり、卒業まで基本的に同じメンバーで過ごします。お互いの個性を尊重しながら、仲間としての連帯感が持てるようなクラスの雰囲気をつくっていきたいと考えています。クラスのメンバーは平成26年4月にメディア情報工学科に入学した第11期生37名(入学後2学年修了までに4名が退学)に、昨年度4月から転科してメディア情報工学科に仲間入りした学生、今年度から3年次に入学したモンゴルからの日本政府国費留学生、の合計39名でスタートしました。前年度の後期から1年間休学して米国の高校に留学している第11期生1名が後期から復学して、最終的には40名のメンバーとなる予定です。4月29日(金)に開催された体育祭では、当日の競技だけでなく、役員選出、選手決定、学級旗作成、クラスTシャツ作成、等、事前の準備にも精力的に取り組み、クラスのメンバー同士がまた一歩仲良くなれたのではないかと思います。3年から4年にかけては、進級要件が厳しい難所と言えますが、卒業やその後の将来への展望を見出し、モチベーションを高め、今年も全員に進級してもらいたいという思いで、担任としては熱意を燃やしています。保護者との連携も重視しながら、学生が主体的に学べるよう、担任として必要な指導・支援ができればと考えています。1年間よろしくお願いいたします。

※研修旅行については、3年生の保護者に同封している学級だよりをご参照下さい。



体育祭での記念撮影 (3年メディア)

(3年学科担任：西村 篤)

### 各学年の話題 (4年生)

去年度までは2階にあったホームルームが1階へと移り、このクラスの41名が一堂に集まって日々過ごすことができる最後の年度となります。今年度の秋頃には各人がそれぞれ研究室配属され、次年度から基本的には研究室単位で集まり、毎日を過ごすこととなります。

さて、4月早々に進路アンケート調査を行いました。その結果、就職希望者は23人(県内:6人、県外:17人)、進学希望者は18人(大学:12人、専攻科:6人)であることが分かりました。この時点で明確に具体的な進路先の名前まで示せた学生は12名でした。

また、同月に41名全員と個人面談を行いました。まだ十分に考えがまとまらず、大いに悩む時期だとは思われますが、就職を希望する学生は、遅くとも、インターンシップ研修が終了する頃までには、具体的な志望企業を決定し、企業研究を始めているくらいでなければ、就職活動において大変苦労することになると思われます。自分が志望する企業が、同業他社といったいどのような点で異なるのか?何故その志望企業でなければならないのか?などの点をしっかり調べ、考えることが重要です。

一方、進学を希望する学生であれば、入試時期は次年度の春からですので、比較的余裕があるように感じられるかもしれませんが、早くから十分な時間を取って受験対策を始めなければ、志望大学や専攻科への進学は困難なものとなります。どれだけ早くに具体的な進路先を決め、そして、受験のための勉強(過去問題で自分のレベル

を知ることも大事!)を始められるかが鍵となります。更に、大学等への進学の場合、多くは勉強するだけでなく、研究もしなければならないため、どのような研究をしたいのかということも事前に考える必要があります。大学等を選ぶもう1つの大事なポイントは、自分が行いたいと考える研究を十分にサポートできる実績を持つ教員が志望する大学等にいるかどうか、という点です。志望先は、勉強と研究の両方の内容を中心に考える必要があります。

保護者の皆様におかれましては、学生が帰省した際に是非とも進路について繰り返し学生の話聞いて頂きますよう、何卒、宜しくお願い申し上げます。

(4年学科担任：佐藤 尚)

## インターンシップの話題 (4年生)

沖縄高専では、4年生を対象とする必修科目「インターンシップ」があります。これは、各学科で学んだ理論や考え方を実際の社会において応用、実践することにより社会に貢献できる人材の育成を目指しています。インターンシップの目的及び狙いは次の通りです。

- コミュニケーションの訓練を行うこと。
- 企業等の実態を理解すること。
- 実践を通して、製造・開発・品質管理やサービスの内容等を理解すること。
- 企業等における経営の仕組みと運営方法について理解すること。
- 高専で学んだ知識が企業でどのように活用・応用されているのかを理解すること。
- 企業が求めている人材とは何かを探り、自らの適性を考え、キャリアデザインに活かすことができること。

今年度のインターンシップ期間は、8月18日(木)～9月23日(金)の夏期休業中に2週間程度の就業体験をすることになります。6月現在までに、メディア情報工学科のインターンシップ履修生全員のインターンシップ先の希望調査を終えて、各学生のインターンシップ先の企業との調整を行っています。現時点では9名のインターンシップ先が確定してい

ます。また、そのインターンシップ参加に向けての準備として、6月15日に外部講師を招き、ビジネスマナー講習会を行い、さらに6月22日には女子学生を対象としたメイクアップセミナーも予定しています。今後の予定ですが、6月末までに履修生全員のインターンシップ先が決まりますように、指導していきたいので、保護者の皆様におかれましては、ご支援、よろしくお願いいたします。

(4年学科副担任 インターンシップ担当：  
バイティガ ザカリ)

## 各学年の話題 (5年生)

### 学級状況

5年目の高専生活が2ヶ月過ぎました。この間に就職活動や進学活動に力を注ぎ、なかなか落ち着かない時間が続いています。この頃唯一息抜きできたのが4月29日の体育祭でした。クラス全員で思いきって力を出しあい、最終学年に相応しい良い思い出を作ることが出来ました。それも束の間の休息で、まだまだ進路活動の継続や卒業研究など、やらなければならないことが沢山あり、卒業まで気を抜くことが出来ません。



体育祭での記念撮影 (5年メディア)

### 進路の活動

6月10日現在で卒業見込者40名中、進路別希望は就職希望27名(67.5%)、進学希望13名(32.5%)です。進学希望の内訳は大学3年編入希望が6名、専攻科希望が7名です。大学3年編入試験についてはこれから始まる大学が多いです。受験希望者には頑張ってもらいたいと思います。

## 編集後記

5年生の進路指導は、配属研究室の指導教員が個別に行っています。5年担任や本校キャリアアドバイザーがサポートすることもあります。いずれにしても、学生自身が「行動」をしなければ、内々定や合格を手にすることはできません。あきらめないこと、早めに準備をすることが進路先決定のコツだと思います。ご家庭におかれましても、お子さんの進路活動の相談にのっていただきますよう、お願いいたします。

(5年学科担任：タンスリヤボン スリヨン)

## 新任教員紹介

4月より沖縄高専に赴任した金城篤史です。情報化社会の基盤となるインターネットを始めとした情報ネットワークについて教えることを担当します。初めての教員生活で不安なこともいっぱいですが精一杯学生へ指導を行いたいと思います。今後共よろしく願います。

(3年学科副担任：金城 篤史)

## その他学科内の話題

### ■受賞

- 第11回情報危機管理コンテスト  
安里 眞夢 (3年メディア)  
福井大学・金沢高専・沖縄高専の混成チームに  
個人参加優勝・経済産業大臣賞

学科だよりも平成28年度で11年目となります。15歳から20歳まで(専攻科だと22歳まで)という、不安定で変化の大きい時期に学ぶ高専の教育課程には勉強以外にも実に様々な教育的課題があるものだと認識しています。学科教員一丸となって、多様な教育的課題に向き合っていきたいと思っています。学科だよりに関するご意見ご要望がございましたら、是非下記連絡先までお知らせください。また、学校に対してお持ちの疑問・要望、また他の保護者の方々にも知って欲しいことなどを投書して下さることも大歓迎ですので、是非お気軽にお便りをお寄せ下さい。

編集担当者連絡先：

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古 905

沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科 金城 篤史

TEL 0980-55-4003 (代) FAX 0980-55-4012 (代)